

都立 第五福竜丸展示館ニュース

2011.07.01
No.364

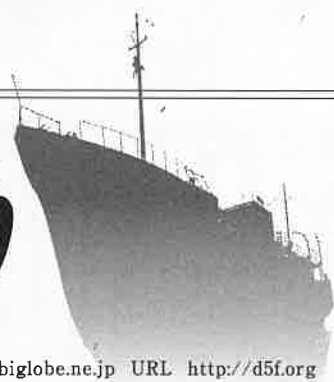
(7・8月号)

福竜丸だより

発行：公益財団法人 第五福竜丸平和協会

連絡所：東京都江東区夢の島2-1-1 〒136-0081 第五福竜丸展示館内

Tel.03-3521-8494 Fax.03-3521-2900 E-mail: fukuryumaru@msa.biglobe.ne.jp URL: http://d5f.org



5月12日仙台市泉区の館中学校の修学旅行生四〇人が来館し、ガイドの説明に聞き入り静かに館内を見学、記念写真に応じてくれました。



ビキニ事件・第五福竜丸被ばく 平和への希求といのちへの慈しみ

第五福竜丸の被ばくは、米ソ核軍拡がエスカレートするもとの巨大な破壊力を持つ水爆の実戦化への実験でした。広島原爆一千倍、こんにちまでアメリカがおこなった核爆発中最大、ソ連はこの数年後にビキニ水爆の四倍近い巨大水爆実験をおこなっています。両水爆の放射能汚染はいまも大地を蝕みつづけています。

ビキニ事件は、核兵器の脅威、環境汚染の不安を市民の中にひろげ、核実験中止・原水爆反対の世論と運動の高まりへと発展していきました。一方で「原子力の平和利用」への宣伝と期待が市民の中にもひろげられていきました。

*

六月一日から第五福竜丸展示館では企画展「ビキニ事件新聞切抜帖」第五福竜丸被災と人びとのくらし」を開いています。事件当時の新聞報道を通じて、市民に広がる放射能への不安を知ることができ

ます。

関連企画として市民講座「ヒトと地球と放射線」が三回にわたり開かれ、のべ一七〇人が参加しました。講師は、崎山比早子、安斎育郎、奥山修平の各氏、それぞれの専門分野から興味のつきないお話となりました。今号では、六月一日におこなわれた崎山比早子さんの講演から「放射線ってなんだ？ヒトへの影響を知ろう」を紹介します。

*

五月一二日朝、震災後初めて、宮城県仙台市からの修学旅行生を迎えました。内陸部で、学校や住宅地に津波の影響はなかったとのことですが、知人、親戚が被災され、家屋などの被害をうけた生徒も多いとのこと、説明しながら思わず胸が詰まりました。

放射線への心配・不安がひろがるいま、改めて第五福竜丸のことを正確に伝えていかなければと心する毎日です。

〈市民講座〉

放射線ってなんだ？

ヒトへの影響を知ろう

崎山比早子

DNAについてのほなし

被ばくがどのように危険なのか、体の設計図であるDNAについてお話しします。人間の体は六〇兆個の細胞からできており、そのおおもとは受精卵一個の細胞から始まっています。受精卵はあらゆる臓器に分化する能力があるので、万能（多能）細胞といわれています。これが分化して皮膚だとか胃、肝臓などさまざまな臓器を形づくりします。これら臓器は形も機能もそれぞれ違いますが、共通して万能細胞と同じ分子を一つ持っている。それが体の設計図であるDNAです。

DNAは二重のラセン構造で向かい合う塩基が対になっています。塩基はアデニン、チミン、グアニン、シトシンという四種類。これらは対の作り方があり、アデニンはチミンと、グアニンはシトシンとしか対を作らない。人には三三億塩基対があります。塩基がどのように並ぶかで、どういうアミノ酸がどういう順序で作られるかの暗号がDNAに書かれている。これはどういうたんぱく質をつくるかの設計図だということです。細胞が分裂するときDNAは必ず二倍に複製されます。その場合必ず一方が鋳型になり、（図表）新しい鎖が作られます。このとき間違えた塩基が対を作ると、これをはじき出して間違いを修正して合成していきます。このように細胞が何回分裂しても元と同じDNAができます。

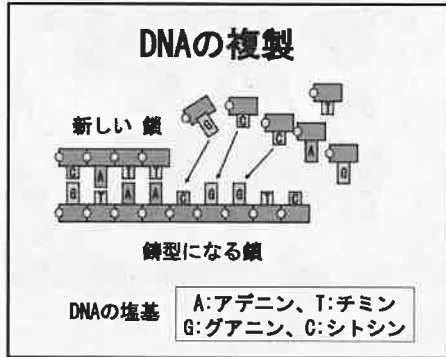
放射線がDNAを壊す

大切なDNAに放射線が与える影響の大きさというのは放射線の量によって変わって

きます。

放射線の体への影響を示す単位は「シーベルト」です。その千分の一が一ミリシーベルトです。これを全身にあびるということは、その人の体を構成する全ての細胞の核に、平均して一本の放射線が通ることになります。千ミリシーベルトあびれば千本通る。一マイクロシーベルトあびれば千個に一個の細胞の核に放射線が通ることになる。しかし千本通っても、一本通っても起きる出来事の質は変わらない。数が変わるだけです。

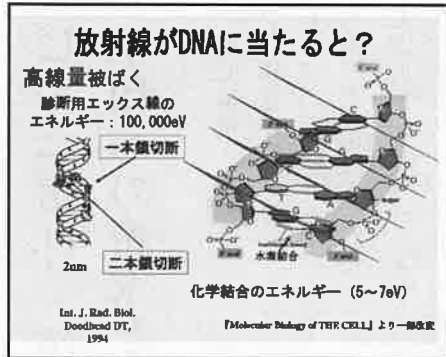
DNAを構成している物質は化学結合のエネルギーでつながっている。このエネルギーの大きさに比べて、例えば診断用の엑스線のエネルギー



は、一万五千倍から二万倍くらい大きい。これが一本通ると簡単にDNAの結合は切れてしまふ。放射線がたくさん通ればDNAはズタズタに切れます。

しかも単純に切れるのではなく、周りにあるたくさんなたんぱく質も巻き込んで複雑な損傷を起こすというのが放射線の傷なのです。

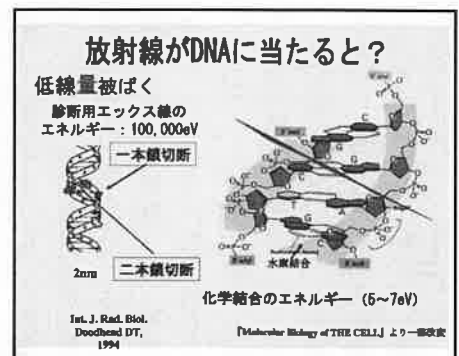
DNAは毎日のように切れているので、放射線で多少切れてもどうということはない、という専門家もいます。しかし重要なのは、自然に切れる傷は修復が簡単で、間違いを起こさず、とくところが放射線により切れると複雑な損傷が起こり、間違いを起こしやすくなるのです。



細胞分裂が阻害される

放射線が一度にたくさん身体を通った最近の事例は、JCO事故です。被ばくした方々は中性子線をあびたわけですが、大内さんの被ばく八日後の手の写真はそれほど皮膚が壊れていないように見えますが、被ばく後二六日たつと皮膚が剥がれてきて皮下がむき出しになってきています。こうした変化が体中におこるわけです。放射線を全身にあびれば、いたるところにこのような変化が起こります。皮膚の一番上は毎日あかとして剥げ落ちていきます。その分新たな細胞ができて補っていきます。放射線でDNAがズタズタに切れてし

(3めんにつづく)



まうと幹細胞の分裂能力が失われてしまう。全身に放射線をあびれば体中の細胞分裂能力が失われてしまいます。

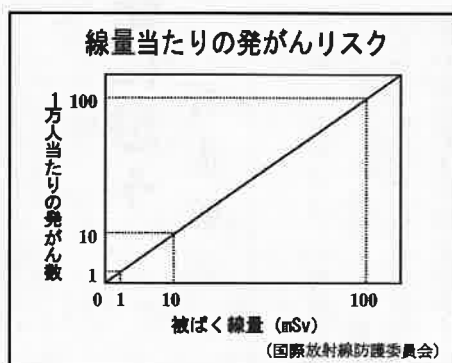
この治療方法としては、DNAをつなぎ直すということが考えられるわけですが、その技術はありません。

第五福竜丸の久保山さんの入院生活の頃と殆ど治療方法は変わっていません。抗生物質を投与し安静と感染の予防ということ。第五福竜丸の頃よりは造血を促す薬とがありますし、設備でいえば無菌室などが今はあり、そこで治療します。大内さんもその中だからこそ八三日間も生きていられたのです。

大内さんの被ばく線量は、久保山さんよりも断然高く、一万七千から二万ミリシーベルトです。久保山さんは二千から三千ミリシーベルトと推定されています。

放射線の確率的影響とは

人は六〜七千ミリシーベルトを全身にあびれば死亡してしまふ。五〇%ぐらいの人が亡くなるのが約四千ミリシーベルトです。



大量の放射線を一度にあびると、色んな症状が出てきます。あびてから比較的短時間のうちに症状が出るのを急性障害といいます。急性障害はあびた人すべてに現れるので、確定的影響といえます。これが現れる一番低い線量が一〇〇〜二五〇ミリシーベルトです。症状としてはリンパ球や白血球が一時的に減少し、体がだるくなります。

一〇〇ミリシーベルト以下では大部分の人に急性障害は現れません。この数値を急性障害の閾(しきい)値といいます。急性障害に閾値があるという事について、あまり文句をいう人はいない。急性障害が出るより低い線量で問題になるのが晩発性障害です。放射線

受けてから早くて数年、遅ければ数十年たったあとにガンになる。これは被ばくした人すべてに出るわけではなくて、ある一定の頻度ででてくるので確率的影響といっています。

この線量というのは低線量域といいますが、医療被ばくはこの線量域になります。放射線作業従事者が一年間に受ける限度は五〇ミリを超えない、五年間積算して一〇〇ミリシーベルトを超えないとなつています。一般の公衆は、一年間で一ミリシーベルトを超えてはいけません。

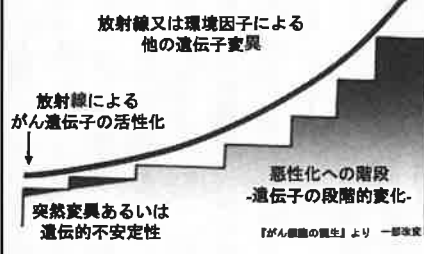
世の中には自然放射線もあります。食べ物の中にはカリウムなどもあり、地面からはラドンなどがでてきます。こういう自然放射線というのは生きている限り避けることができません。世界平均で二・四ミリシーベルト、日本は少ななくて一・二ミリシーベルトくらいです。これは避けられませんから誰でもあびますが、人為的放射線はこれにプラスしてあるわけ。たとえばマンモグラフィなどは〇・四ミリシーベルト、胸部レントゲンは〇・〇五ミリシーベルトですが、自然放射線

より低いから安全だということではなく、自然放射線にプラスしてあるということを押さえておく必要があります。

低線量ならば安全か

低線量の場合は、DNAを切る頻度は少ないけれども起きることは高線量と同じです。DNAに放射線による傷がつきますと、これを細胞は直そうとします。最近DNAの傷を直すことが判ってきましたから大丈夫です、という人がいますけれど、これはずっと以前から判っていたことで、つなぎ直すことは直しますが、正しく修復するか間違つて修復するかが問題です。放射線の傷は間違つて直しやすいのです。正しく直されれば変異はない、間違つて直すと変異がおこりそれが受け継がれていくのです。変異は元には戻らない、細胞が分裂していく限り、その子孫にその変異も伝わっていきます。この細胞がまた被ばくしたり環境中の化学物質などの影響で傷つき、そこで直し間違いがおこると、それも受け継がれていき、細胞の中で変異が積み重なって増えていきます。

がんは多数の遺伝子の変化で起きる —がんの多段階説—



ガンが発症するとは

ガンについてですが、一個の遺伝子の変化ではガンはできません。たくさんの遺伝子の変化が重なってガンができます。これをガンの多段階説といひ、すでに定説になっています。図の横軸が時間軸です。放射線によりガン遺伝子に変異が起こり活性化すると階段を一つ上ることになる。長い時間のあいだには環境中の放射線もあり、化学物質もある、それにより遺伝子が傷つけられ、そこでつなぎ間違いがおこると変異が起きて階段をまた一段上ることになる。このようにして最終的にはガンになります。

ガンはほとんど老人の病気(4めんだにつづく)

被爆者として 米国の核実験に想う

岩佐幹三

米エネルギー省は、昨年九月通算二四回目、オバマ政権下で初めての臨界前核実験を行ったと発表しました。新たな核兵器開発につながりかねないこの実験に次いで十一月と今年三月には別の研究施設で「Zマシン」と呼ばれる装置を使って、新しい形の実験を行っています。これは現在保有中の核弾頭の耐久性・有効性を検証するものとされています。しかしいずれにせよ核兵器の使用を前提とした核抑止力の神話に執着する政策のあらわれと言わざるをえず、核兵器の早期廃絶を求める私たちには容認できない行為です。

オバマ大統領は、就任の翌年ブラハで核兵器を使用した唯一の核保有国としての道義的責任に言及し、「核兵器のない世界」の実現への希望を国際社会に訴えました。その後、核態勢の見直しを行い、昨年のNPT再検討会議でも協力的な姿勢を示し

ました。その政権下での核実験は、依然として核抑止力を維持強化し、核兵器廃絶の国際的な流れに逆行する力が存在することを物語っています。

オバマ氏自身、「核兵器の廃絶は、私の生きている間には実現しないかもしれない」とも語っています。なぜか、その根底にあるものを考えてみます。

大統領の動きを制約している要因としては、第一にCTBT条約批准の遅れが示すように政官界における核抑止力への依存体質が挙げられます。第二には産軍学共同体制の下での核兵器の開発をめぐる各種のあくなき利権追求体質の存在でしょう。第三は私たちに

かかる問題です。彼は、「イエス・ウィ・キャン」、私は提言するが、私だけではできない。みんなの大きな力、世論と運動が必要だ。力を合わせて実現させようと言っていると思いま

す。一九八〇年代、米国が欧州諸国に核ミサイル、パーシングIIを強行配備しました。八二年の第二回国連軍縮特別総会には「ノー・ニューク」を合言葉に参加者一〇〇万人の国際行動でニューヨークの街を埋め尽くしました。日本被団協は、第四回軍縮特別総会の開催を求めて活動しています。

冷戦は事実上終わりましたが、冷戦後遺症はまだ残っています。米国、ロシア、中国は、核兵器保有超大国として、目に見えない覇権争いの火花を散らしているようです。この源を消し去って、これらの諸国に「核兵器のない世界」を作り上げる責任を果たさせるのは、私たちの結集した世論と運動です。

いま、私たちは、東日本大震災の結果発生した福島原発事故で、ヒロシマ、ナガサキ、ビキニ、フクシマと四度の核エネルギー被爆を体験しました。私たちは、核分裂を伴う核エネルギー被爆（原爆）核兵器の被害と原発の被害）の脅威から人類を解放する歴史的課題に直面しています。（いわさみきぞう／日本被団協代表委員、第五福竜平和協会評議員）。

（3めんのつつき）
です。まれに遺伝子に変異があるガン家系の場合は別として、ほとんど老人がなる病気です。長い人生のあいだにDNAが傷を受けて、つなぎ間違いがおこって時間をかけて階段を上り、やがてガンになる。長く生きていればいるほどこの機会が増えてくるのです。

どのくらいの線量でガンがおきるのかということですが、これは国際放射線防護委員会が出しているモデルで、一ミリシーベルトを二万人があびると一人がガンになる。一〇ミリシーベルトで一〇人、一〇〇ミリシーベルトで一〇〇人という数値です。

急性症状では閾（しきい）値があり、これ以下では症状が出ないといいましたが、晩発性障害には閾値はありません。ということ、放射線に安全な量はないということ。米科学アカデミーも国連科学委員会も欧州放射線リスク委員会もこの考え方に立っており、国際的な合意事項です。この前提に立って放射線の防護をなささいということ。という事です。

ところが日本では、原子力安全委員会は、一〇〇ミリシーベルトあびると、大体ガン死が〇・五%上乗せされるだけだといいました。〇・五%というのは千人に五人です。もし予防注射でその率で死亡すればものすごい社会問題になるでしょう。これは因果関係がハッキリしているわけで、予防注射や抗生物質、抗ガン剤などもそうですが、千人に五人が死んだら大問題です。ところが今回の被ばくの対応について、大きな社会問題になっていないし、メディアもあまり問題にしていないうちにみえます。私には大問題であると思うのです。

放射線と人との関係というのは、その危険を人間が身を持って経験することにより、つまり被ばくしガンや障害を経験することにより、規制を強めてきた歴史があります。いま、それを無視して規制値を緩めることなど、まさに自殺行為ではないかと思えます。

（さきやま ひさこ／医学博士、元放射線医学総合研究所主任研究官、高木学校）

（さきやま ひさこ／医学博士、元放射線医学総合研究所主任研究官、高木学校）

（さきやま ひさこ／医学博士、元放射線医学総合研究所主任研究官、高木学校）

（さきやま ひさこ／医学博士、元放射線医学総合研究所主任研究官、高木学校）

（さきやま ひさこ／医学博士、元放射線医学総合研究所主任研究官、高木学校）

（さきやま ひさこ／医学博士、元放射線医学総合研究所主任研究官、高木学校）

（さきやま ひさこ／医学博士、元放射線医学総合研究所主任研究官、高木学校）



ビキニ水爆実験は、第五福竜丸乗組員の放射能症をはじめ、汚染マグロ問題など深刻な影響をもたらした。水産庁は、科学者の声にも押されて海洋調査をおこなう。調査団員として環境の放射能の測定を担当した岡野真治さんに、当時の模様、福島原発周辺の放射線の測定などについてうかがった（文責編集部）。

ビキニからフクシマへ 岡野真治さん に聞く

ビキニ水爆と環境放射能

岡野真治さんは第五福竜丸の被災後、ビキニ周辺の海域を水産庁の調査船俊鷗丸で五年と五六年に調査し、その後も放射線影響協会研究参与として環境中の放射線測定を続けてきた。福島第一原発事故でも放射線調査に携わり、「放射能は測定器で測ればすぐに出る。測定がすべての基本。ただ、方法がちゃんとしていないと意味はない。上手に測って、正しい理解で判断することが重要」と訴える。

＊

岡野さんは八四歳の現在も現役の研究者。福島第一原発事故後、大反響を巻き起こしたNHK教育のE TV特集「ネットワークでつくる放射能汚染地図」の制作に協力。取材班とともに四月二〇日から二二日にかけて、福島県内の放射線を測定し分析した。

「原発の正門の辺りは放射線は強いが、途中でけっこう弱いところがあった。事故後、雪や雨も降っており、特殊な条件が重なって、放射性物質

の落ち方がまばらだった」と語る。

政府が決めた同心円状の避難区域設定については「直径何キロ以内はどうのこうのという基準の決め方はサイエンスティフィックではない。場所場所のローカルの放射線量は、行って測ってみないと分からない」と指摘し、「福島の特徴は、圧倒的にセシウムが多いことだ。いろんな計算や扱いは割と単純」と分析する。セシウムは筋肉に入って心臓や脳に影響を与え、病気を引き起こすことが多いという。

＊

岡野さんが環境中の放射線測定に携わるきっかけは、一九五四年三月一日のビキニ事件だった。科学研究所（現・理化学研究所）の山崎文男研究室でベニシリンやラジオアイソトープの研究を続けていた岡野さんは、「大変な社会問題だからなんとかしなきゃいけないということ、若かった私が選ばれた。僕を送っておけばなんとかなるだろう」ということで同年五月一五日に出港した俊鷗丸に乗り組んだ。

核実験が続いていた当時、船が放射能で汚染された時の対応のための「相談役」の役割を担い、また、自ら開発・製作した真空管式のシンチレーションカウンタで放射線を測定した。

ビキニ環礁から約一〇キロの地点まで近づいて測定した。「そこも相当な放射性物質が流れてきていた。海にあんなに流れているということとは予想以上だった。そう簡単に希釈せず、流れに沿ってかなり遠くまで同じ濃度だった」。この深刻な海洋汚染は、核実験を行ったアメリカですら把握しておらず、岡野さんらの調査後、アメリカは現場海域に調査船タニ号を派遣している。

＊

福島について、岡野さんは「ビキニでは放射性物質は単純に東から西に流れてきていたが、日本近海は親潮と黒潮が交互に來ているから、混ざり方は複雑。ビキニの時と同じように、プランクトンの汚染度は高くなるだろうが、海の流れはしゅっちゅう変わるし、魚も移動する。海は毎日

毎日測る必要がある」と測定の重要性を強調している。

チェルノブイリをはじめ各地の環境放射線を測定し、核の問題とも向き合ってきた岡野さんは、「日本は原発が安全・安心という宣伝を一生懸命にやるが、アメリカでもヨーロッパでも核テロの可能性があるから、原子力が我々の手の内にある間は非常に危険だ」という意識がある。また、アメリカはハンフォードやネバダなど、核開発で環境をずいぶん汚染しているから、どう放射能に対応したらいいかが身に付いている。想像できないことがいろいろ起こるのが世の中。日本も原子力の危険性を認めて、真剣に取り組むべきだ」と話している。

×

×

×

おかの・まさはる
一九二六年、神奈川県生まれ。科学研究所（現・理化学研究所）仁科研究室を経て、理学研究所放射線研究室副主任研究員を務め、現在は放射線影響協会研究参与。岡野さん製作の俊鷗丸調査のシンチレーションカウンタは、展示館に寄贈されている。

忘れられたビキニ被災事件 衝撃的だった

福島原発による汚染水海洋投棄

岩垂 弘

四月五日付の新聞各紙を見て驚いた。東日本大震災で世界最悪レベルの事故を起こした東京電力福島第一原子力発電所が、原発内に貯まった放射能汚染水を海に放出し始めたという記事だった。そのニュース自体、私にとって衝撃的だったが、それ以上に驚いたのは、この東電の行為をビキニ被災事件とからませて批判したメディアがなかったことだった。

事件は、こうした被害だけで終わらなかった。「死の灰」が海水を汚染したため、太平洋で操業していた漁船から日本の港に水揚げされたマグロは放射能に汚染されているとして廃棄された。その量は約五〇〇トンにのぼった。刺身にするると二五〇万人分といわれた。魚屋の店頭や寿司屋からマグロが消え、「原爆マグロ」に日本中がパニック状態に陥った。他の魚の価格も暴落し、水産業界は大打撃を被った。

全国をおおった

放射能の不安

ビキニ被災事件とは、五七年前の一九五四年三月一日、太平洋のビキニ環礁で行われた米国の水爆実験で、静岡県焼津港所属のマグロ漁船「第五福竜丸」の乗組員や周辺の島々の住民が、実験によって生じた核分裂生成物、すなわち放射能を帯びた「死の灰」

放射能汚染を調査するための科学調査船「俊鵬丸（しゅんこつまる）」をこの年の五月に現地に派遣した。世界最初の核実験による環境影響調査だった。乗船者は科学者、船員、漁業関係者、報道関係者ら総勢七二人。

俊鵬丸は魚類その他の生物及び海水、大気、海水の放射能の測定、海流、気象などの観測に従事し、七月に帰国したが、調査の結果、太平洋の海水の放射能汚染は予想以上に大きかった。魚は大型、小型の別なく放射能に汚染され、筋肉に比べて内臓の汚染がけたちがい大きく、肝臓、腎臓、脾臓などの順で放射性物質の濃縮がみられた。大型の動物プランクトンのなかには、強い放射能をもつものがあつた。

俊鵬丸調査顧問団の一人だった三宅泰雄・気象研究所室長（その後、東京教育大教授、第五福竜丸平和協会初代会長を歴任）が、こう書き残している。

「海洋に廃棄物をすてても、水がたくさんあるから、すぐうすめられてしまう、と人々

はかんがえがちだ。しかし、その考えはまちがいである。海洋では、水平の方向にも、密度のちがう異質の水が、たがいにモザイクのようにならんでいる。その境は不連続面でしきられていて、水は交換できない。そのモザイクのなかを、海流がまるで大河の水のようにながれているところもある。海洋では水は、水平の方向にも、かんたんにはまじりあわないのである」（『死の灰と闘う科学者』、岩波新書、一九七二年刊）

継承されなかった教訓

つまり、ビキニ被災事件こそ、核による海洋汚染の恐ろしさを世界に知らしめた事件だったのだ。さらに、海水の放射能汚染は希釈されることなく、海流によって広範囲に拡散することを明らかにした事件だったのである。それ故に、この事件をきっかけに我が国で反核運動が高揚し、世界に広がったのだった。

こうした歴史的事実が電力会社、政府、原発関連の学者、マスメディアにちゃんと継承されていたら、今回の福島第

一原発の事故で汚染水が海中に投棄されるというような「暴挙」はなかったと思われる。韓国やロシアなどから「無責任な日本」と抗議されるという国際的失態を演じなくてもすんだと私は思う。

要するに、電力会社、政府、原発関連の学者、マスメディアの間では、ビキニ被災事件がすっかり忘れ去られていたのだ。メディアまで健忘症に陥っていたなんて、なんともなさない。なぜなら、ビキニ被災事件が起きた時、メディア、とりわけ新聞は事件を積極的に報道したからだ。

著名な物理学者だった坂田昌一は一九五六年、研究者の間に三つの害毒がまんえんしているとして「三反運動」を提唱した。三つの害毒の一つが「歴史の忘却」だった。今こそ、坂田の提唱を思い起こしたい。（いわだれひろし／ジャーナリスト・第五福竜丸平和協会評議員）





連載⑨

晴れた日に 雨の日に

—第五福竜丸とともに—

山村茂雄

「承前」

ビキニ被災三〇周年の八四年三月一日午前、焼津駅前から久保山愛吉さんの墓所・弘徳院に向かう「誓いの行進」の献花の列に中野好夫さんの姿がありました。平和行進の参加などでは、列の「うしろを歩く」のが中野スタイルですが、この日は、たまたま前を歩いている列に入りました。私が焼津駅に中野さんを迎え、案内を兼ねて一緒にするのは、そのことをあら

かじめお伝えしてそうしたことではなく、普通に一緒に歩いたのです。これもまた中野スタイルにそつてのことです。私が中野さんの面識を得るのは、八一年六月からはじめられた「忘れまいぞ、核、問題討論会」の連絡を担当するなかでつながりができていたのです。

「忘れまいぞ、核、問題討論会」は、中野好夫、大友よふ（全国地婦連会長）、中林貞男（日本生協連会長）、小野周（物理学者）、関屋綾子（元日本YWCA会長）の五氏の呼びかけによつて、核問題を継続的に勉強していく市民の討論の場として生まれたものでした。会は八月を除いて月一回、八四年七月まで三五回開かれています。

*

「タバコを吸つてはいけないうのだからね」そう言いながらタバコを口にされながら、八〇歳とは思えないしつかりした足取りで歩かれました。

集会は午後一時からです。会場前の寿司屋でにぎりをご馳走になりました。どんなお話をしていたのか記憶にありませんが、中野さんは、まだ二つ三つ並んでいるすし桶を私

の方にそつと回してもらったのでした。

この年の3・1ビキニデー中央集会は、中央と地元でつづられた中央実行委員会と静岡県実行委員会の主催です。前年は、主催が静岡県実行委員会、八三年世界大会準備委員会の協賛。「統一大会」の日程が、年々ずんなり決まらないように、ビキニデー集會も、主催、共催、協賛と態様が変わりました。

焼津市民体育館の床にはシートが敷かれ、パイプの簡易いすが並べられていました。中野さんは、集會役員の勧めを断り、「私はここで」と後方の席で、この年初参加の焼津市長あいさつや主催者あいさつを聞かれました。

この日の、主催者代表・大友よふさんのあいさつの結び、「反核・軍縮・平和というおおいなる仕事をするためには、五本の指ががっちり力をためて、同時に組まなければなりません。核廃絶と平和のために、私たちの息子よ、娘よ、孫よ、団結いたしましょう」。

ともに主催者（地元）の鈴木正次さんのあいさつの結びは、「この集會を契機にお互い

がもつともつと信頼し合い連帯し合い、再び不幸な分裂をひきおこさないために心しあうことが何より大切であると思っています。「原爆ゆるすまじー！分裂ゆるすまじー！これが静岡の心です」というものでした。

集會の半ば過ぎ「そろそろ失礼する」と言われ、中野さんはお一人で駅に向かわれました。

「行くべきだから行く」——中野さんのこの日を伝えた「毎日」夕刊の見出しです。

*

六月三日、静岡県富士宮と由比間の平和行進に、中野さんの姿がありました。行進途中、集中豪雨に見舞われます。随伴車に乗られるようにとの勧めを受けながら歩く、びしょ濡れの中野さんの姿が彷彿します。行進の東京—広島—長崎コースは、前年から世界大会準備委員会が主催していました。この年は行進での団体旗の自粛を準備委がよびかけたことが問題となり、大会運営にまで波紋を広げました。通し行進者としては、ゼッケンの金子徳好さん、被爆者の行宗一さんが歩きました。

*

「原水禁運動調整役失う」——中野好夫さん享年八一歳の死去を伝える、八五年二月二〇日付「朝日」夕刊が掲げた見出しです。記事、敗戦直後、ある新聞社から「だれが戦争犯罪人と思うか」とのアンケートを求められたとき、中野さんは自分の名前を書いて送り返したというエピソードが紹介されていました。「氏をこうした実践に駆り立てたのは、国民の一人として太平洋戦争を防げなかったことへの深い反省だった」、岩垂弘編集委員が記す「評伝」の一節です。

同紙面には「平和行進の最後尾を歩く、在りし日の中野好夫さん」81年6月29日滋賀県・大津市内で」と説明された写真が掲載されています。写真説明にはありませんが、並んで歩くのは新村猛さんとみうけられます。ともに雨傘をもたれています。この日も雨が降ったのでしようか（第五福竜丸平和協会顧問）。

◇前回、中野さんの平和行進の参加を吉野源三郎さん死去の翌年としましたが、参加は「その年」に、山高しげりさんが亡なられたのは「十一月」と訂正します。

大石又七さん、大江健三郎さんの対談（7月3日放送）



前号でもお知らせした大石・大江対談。終了後、船体をバッグに談笑するお二人。この模様は7月3日教育テレビETV特集で放送されます。

焼津市民「第五福竜丸に会いに行こう」ツアーに33人

5月22日、「焼津流、平和の作り方」実行委員会の平和ツアーで焼津の市民が第五福竜丸展示館を訪れました。

一行は、市の広報に応募した焼津市内外の33人。焼津からバスで訪れ、安田和也事務局長から説明を受けて展示館を見学後、渋谷駅に飾られている岡本太郎さんの壁画『明日の神話』を見学しました。

ツアーには第五福竜丸の元漁労長・見崎吉男さんも参加（下の写真中央）。見崎さんは廃船となった第五福竜丸（はやぶさ丸）を1968年に朝日新聞とNHKのインタビューで訪れて以来で、展示館ができてからは初めての来



館です。見崎さんは、「船はそのままで。たくさんの方が応援してくれて幸せ」「よく保存してくれている。核も原発もいりません」と話していました。

参加者からは「第五福竜丸は歴史の証人」「あらためて平和を考える機会を得た」「核（原発も含めて）は、いま人間の手にあまる」「第五福竜丸があることで、焼津の平和を考えることができる」との感想が寄せられました。

告知！展示館でゴジラ

8月19日から21日、展示館内で「ゴジラ」展、トークショーが開催されます。この企画は「本多猪四郎 生誕100周年プロジェクト」の主催する「本多猪四郎＜ゴジラ＞とその映画人生」です。1954年公開当時の『ゴジラ』のポスターやシナリオ、絵コンテなど、ゴジラと本多監督の資料が展示されるほか、予告編が常時上映され、21日午後には、関係者によるトークイベントがあります。どなたでも見学・参加できます（予約不要）。

評議員会・理事会開催さる

公益財団法人第五福竜丸平和協会定時評議員会が5月16日に学士会館で開催され、平成22年度（2010年4月1日より2011年3月31日まで）決算に関して、理事会の決定及び監事による監査を経た財務諸表（貸借対照表、正味財産増減計算書、同内訳表及び財産目録）について審議、提案通り可決承認されました。また、現在の理事が同評議員会をもって任期満了となるので、次期理事の選任について審議が行われ、奥山修平、川口重雄、川崎昭一郎、坂野直子、山本義彦の5氏が再任されました。任期は2013年5月の定時評議員会までです。なお、5月21日に新理事による初会合が行われ、代表理事に川崎昭一郎理事が再任されました。

*

*

平成22年度正味財産増減計算書

単位（円）

経常収益（合計）	23,855,148
基本財産運用収益	9,500
事業活動収益	19,920,347
受取会費	1,739,000
受取寄付金	2,154,130
雑収益	32,171
経常費用（合計）	21,990,112
事業費（計）	20,336,514
公益目的事業 （展示保存、資料収集、 収集、普及広報）	18,117,203
その他の事業 （出版物・記念品頒布）	2,219,311
管理費	1,653,598
当期経常増減額	1,865,036
当期在庫高増減額	69,455
当期一般正味財産増減額	1,934,491
一般正味財産期首残高	17,471,400
一般正味財産期末高	19,405,891
正味財産期末残高	19,405,891